

1 学校教育目標

ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成

2 本年度の重点目標

■ふるさとを愛し、集団の中で自己の有り様を考え、実践できる児童を育成する ■知・徳・体のバランスを保持し、「確かな学力」を備えた児童を育成する ■学校を中心とした関係機関との連携を密にする

3 学校自己評価結果(A優れている B良い C良くない D要改善)

	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
めざす教育	1 子どもたちは、物事をよく考えて判断し、進んで学習に取り組もうとしている。	B	【めざす教育】 【学校】 環境整備、学習支援等、教職員による工夫した教育活動が推進されている。学校全体がすっきりと整頓され、掲示物も常に新鮮な物に更新され、環境が整えられている。 ・予算的に難しい中で日々の安全点検、修繕に丁寧に対応できている。 ・教職員は子どもを中心に据え、個々に寄り添い、それぞれに応じて対応している。反面、先生のサポートが手厚すぎるかもしれない。子どもに任せる活動を仕組み、自主性を育てていきたい。 ・ぐっと我慢しながら粘り強くやり抜かせる指導が難しくなってきたと感じる。 ・落ち着いていままっすぐ素直な子が多いが、粘り強く取り組む姿を伸ばしたい。 ・自分の気持ちを表現できる児童の育成を目指して、アサーションな表現方法の学習や表現タイム、縦割り班活動、幼小連携などを通してコミュニケーション能力を高めてきた。 ・防犯での指導と、地域の方にあいさつすることの判断が児童には難しいかもしれない。距離感の遠い人にはあいさつしづらいのではないかと推測する。
	2 子どもたちは、思いやりの心を持ち、仲間と協力して成長しようとしている。	A	
	3 子どもたちは、何事もねばり強くやり抜こうとしている。	B	
	4 子どもたちは、家庭や地域で進んで挨拶をしようとしている。	B	
	5 学校は、学習・生活環境の整備に努め、子どもたちが意欲的に生活を送ることができる学校づくりに努めている。	A	
	6 学校は、地域とともに歩む、安全で安心な学校づくり(信頼される学校づくり)に努めている。	A	【児童】 ・何事にも真摯に取り組もうとする児童が多い。好き嫌いで判断せず、どうするのが良いのか考える力をもっている児童が多い。前向きに学習しようとする意欲が見られる。 ・明るく爽やかな雰囲気、男女問わず仲が良い。 ・最後までやりきる、ぐっと歯を食いしばって頑張る力に個人差が大きい。 ・6年生を中心にあいさつ活動ががんばっているが、6年生に頼っている部分は大きい。低学年も積極的にあいさつする機会を与えていきたい。 ・地域からは「あいさつしてくれる」「帽子をとって礼をしてくれる」という声を聞く。よいあいさつが地域でも浸透するように、家庭でも声かけ、励まし等をお願いしたい。
	7 学校は、子どもたち一人一人を大切にしながら日々の教育活動に取り組んでいる。	A	
	8 学校は、子どもたちや保護者の方、地域の方の声を聞き、学校教育に反映しようとしている。	A	
	9 学校は、“小中一貫教育”の取り組み内容について、保護者の方や地域の方に理解されるように努めている。	B	【小中一貫教育・情報発信】 ・現在の小中一貫の取組内容は、小中一貫教育日より、学校日より、HP、学級通信、PTA広報等で十分にお知らせしていると思う。 ・コロナ禍以降、行事の見直しをしつつ、オープンスクールも実施できている。
	10 学校は、上記1～9の内容を、学校行事・PTA活動・各種便り・ホームページ等で適切に伝えている。	A	
学習	11 学習支援の取り組み(複数指導やがんばりタイムなど)は、基礎学力の定着に繋がっている。	A	【学習】 ・算数や体育などで複数指導をしたことで、きめ細やかな指導ができていた。 ・児童はタブレットでの学習に慣れ、上手く活用している。教科書や副教材などと併用しての使用は学習効果が高い。ドリル学習では個々の進度に合わせて学習を進めることができる。 ・「本物に触れる」として全学年、校外学習に取り組めたことは教育効果が高かった。児童の視野が広がっていると感じる。 ・行事は日常の学習だけでなく、たくさんのかっこいい機会。気候等も配慮しながら、次年度の計画にも活かせるようにしたい。
	12 タブレット等を用いた学習は、子どもたちの学習意欲を高め、学習理解を深めることに有効である。	A	
	13 “そうあんくんの日”の取り組みは、望ましい家庭生活について考える機会になっている。	B	
	14 生活科や総合的な学習の時間を中心に、コウノトリや地域探訪などのふるさと学習に積極的に取り組んでいる。	A	【そうあんくんの日】 ・そうあんくんの日の取り組み方は家庭によって差を感じる。一緒に考えるよい機会とした。 ・取り組み方を変えていくのも大切。長期休業に取り組んでいるお手伝い大作戦を、平日に活かさないか。効果的な取り組み方を模索していきたい。
	15 校外学習や、栽培・農業体験、自然学校(氷ノ山登山を含む)、修学旅行などの体験は、子どもたちの成長に結びついている。	A	
	16 学校行事は、その実施時期や内容を工夫しながら、適切に実施されている。	A	
	17 子どもたちの様子は、懇談や通知表で適切に伝えられている。	A	
生活	18 学校は、いじめや生活指導上の問題などの早期発見に努めている。	B	【生活指導】 ・毎月1回いじめアンケートを行ったり、児童の様子を注意深く観察することで、早期発見に努めている。また、トラブル等があったときは全職員で共通理解し、対応にあたっている。 ・毎月、生活指導委員会を設け、児童の様子を共通理解している。また、特に配慮が必要な児童があれば、そのたびに会議を持ち、望ましい関わり方を検討している。
	19 学校は、生活のきまりやSNSルールに基づいて、日頃から生活指導を行っている。	A	【タブレット学習】 ・一人一台端末を所有しているため、タブレットの使い方、SNS、インターネットとの付き合い方を指導している。 【個別対応・家庭との連携】 ・学年によっては学期末等に個別に話をする時間を作っている。 ・家庭とは細かなことでも連携を取っているが、今後も丁寧に対応していきたい。 ・児童の頑張りをもっと伝えることで信頼関係を築いていきたい。
	20 学校は、子どもたちと個別に話を聞く機会を持ち、適切に対応するように努めている。	A	
	21 学校は、家庭と十分に連絡を取り、連携が取れた指導を行うように努めている。	A	【健康・安全】 ・睡眠、排便、熱中症予防、感染症予防等の指導ができていた。熱中症アラートの活用、練習日程の調整等しながら工夫して教育活動ができていた。暑い時期の学校行事等、検討を重ねていく。
	22 学校は、健康で安全な学校生活が送れるように、適宜指導を行っている。	A	
PTA	23 学校は、学校行事やPTA活動などを通して、保護者の方や地域の方との相互理解が深まるように努めている。	A	【PTA】 ・コロナ禍以降、活動も縮小傾向にあり、お互いの連携が希薄になりつつある。PTA活動の維持と共に互いの連携を更に見直し、協働して進められるようにしたい。 ・今後、児童数、家庭数の減少が進む。組織や活動のやり方を更にアップデートしていく必要がある。
	24 PTA活動は、適切に運営されている。	A	
教職員のみ	25 学校は、教職員の勤務時間適正化に努めている。	A	【教職員のみ】 ・時数の見直しにより、学期始めに時間の余裕が生まれ、スタートに向けての準備が十分にできた。 ・勤務時間の適正化は十分できている。心の余裕が持て、温かい気持ちで児童と関わられた。 【NO体罰】 ・理由や説明を丁寧に言い、諭す指導が児童に届いている。児童に対する言葉掛けに愛があるから、児童の言葉遣いも穏やかである。
	26 学校は、子どもの人権を尊重し、体罰に頼らない心の通う生活指導に努めている。	A	

4 総合的な学校関係者評価

各項目において、妥当な評価である。伊佐小学校の取組である「本物に触れる体験」は子どもたちにとって社会への意識を広げるいい経験となっている。教育効果が高く、子どもも保護者も満足している。多くの地域の方にもお世話になり、学校、地域、保護者共に連携していく大切さを感じる。多様な児童、多様な家庭の中ではあるが、成長を6年間という長いスパンで見守ることも必要である。児童は仲間と繋がって穏やかにかつ積極的に学校生活を送っている。今後も児童一人一人に寄り添い、小さな変化を見逃すことなく、互いに連携を取りながら学校教育を推進して欲しい。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

自己評価の適切さ
○概ね妥当である。 ○先生は丁寧に関わってくれていると思う。連絡帳でも細かくやり取りしてくれるのがあるが、ありがたい。 ○6年生は特に良くあいさつしている。駐在さんからも「よくあいさつしてくれますよ」と褒めてもらった。6年間の成長を大きく捉えて、6年生でできる様になっていけばそれでいいのではと考える。 ○指導の仕方が変わってきている。本人の意思を尊重して後ろから支える、理解できる様工夫するなど、根性論にたよらない指導を進めている。 ○ねばり強さも6年間の成長をみていると、大きく成長している。低学年の今できないから良くないと捉えないで、6年生の時点で成長を感じられれば十分と捉えていい。 ○6年生の授業参観で中学校が「楽しみ」と「不安」の間あたりの児童が多かった。極端に「心配だ」と言っている児童はいなかった。これは小中一貫教育の成果が出ていると言っている。 ○小中一貫教育についての詳細は保護者と児童が理解できていけばいいと思う。地域の人に広く知ってもらおうのは無理があるかもしれない。 ○HPが非常によく更新されている。しかし、なかなか知らない人も多いかもしれない。学級通信にはよく目を通しているの、通信などにHPのQRコードを載せてもらえればその都度見ることに繋がると思う。
○妥当である。 ○「そうあんくんの日」は家庭によって取り組み方の差はあるかもしれない。毎年話題になる。マンネリ化は多少ある。 ○タブレット学習等、メディアと切り離せない生活に変化している。「ノーマディア」ではなく「グッドメディア」としているところが、親子で一緒に考えるきっかけとなっていていい取組だと思う。 ○長期期間中の「お手伝い大作戦」は、ほとんどの児童はポイント達成者であることから考えると、保護者にも大変協力いただいていると思う。 ○校外学習の成果は高いと感じる。家に帰ってきてから生き生きと活動の様子を話してくれ、親子の良いコミュニケーションの機会となっている。直接自分の目で見、体験することは代えがたい経験である。 ○経験は財産。幸せだと思う。たくさん活動は先生方の負担になるかもしれないが、続けてほしい。
○概ね妥当である。 ○定期的にアンケートを取っていただいていることに安心した。子どもが保護者や先生に話しやすい環境作りを心がけて欲しい。 ○毎月のアンケートや、生活指導委員会を持って共通理解を図っていることがわかった。しかし、保護者にはその取組が伝わっていないかもしれない。 ○食育指導、健康指導も様々な取組を推進できている。
○妥当である。 ○会員数が減っていく中で、保護者の負担も大きくなってきている。負担が大きくなると活動に消極的になっていくことが予想されるので、取組を見直すことも必要かもしれない。 ○活動を狭くするだけでなく、地域やOBにも支援をお願いするなど活動する人数を増やすのも一つの考え方だと思う。
○妥当である。 ○先生が一致団結して教育活動にあたっていることがわかった。 ○過労死ラインに上がる人はいないと聞いて安心した。